

日本

鉱工業生産指数（2020年4月）

新型コロナウイルスの影響を受け、自動車を中心に大幅に減少

政策・経済研究センター

田中康就

03-6858-2717

1 鉱工業指数（生産）

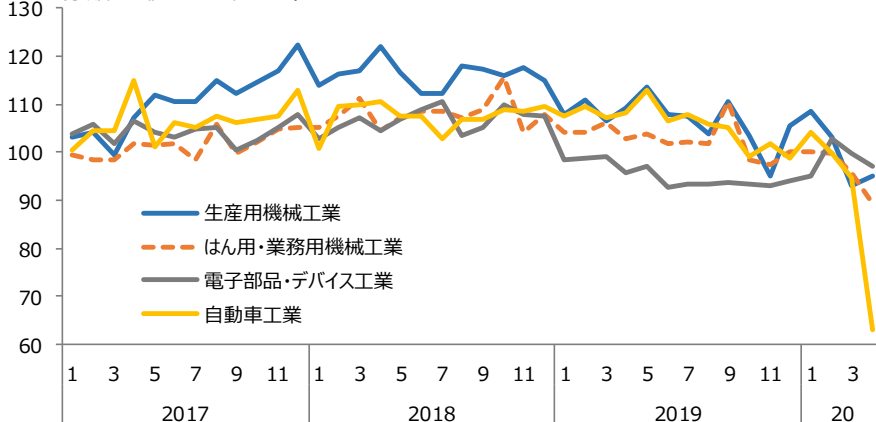
（季節調整値、2015年=100）



出所：経済産業省「鉱工業指数」「製造工業生産予測指数」

2 業種別の生産指数

（季節調整値、2015年=100）



出所：経済産業省「鉱工業指数」

評価ポイント

今回の結果

- 20年4月の鉱工業生産指数（速報）は、季調済前月比▲9.1%と、月次の統計（接続指数）が得られる1978年1月以降では、東日本大震災が発生した11年3月（同▲16.5%）に次いで、過去2番目に大きな低下率となった。
- 業種別にみると、15業種のうち14業種が減少。輸出の低迷や19年10月の消費税増税が抑制要因となる中、3月以降は世界的に新型コロナウイルスの感染拡大が進んで需要が縮小し、幅広い業種で減少となった。
- 特に、①輸出比率が高く、②耐久財であることから需要変動が大きい自動車工業（季調済前月比▲33.3%）は、自動車メーカー各社の生産調整により大幅に減少し、生産全体を▲5.1%ポイント押し下げた。また、航空機部品（同▲66.4%）も、航空各社の減便を背景に大きく減少した。
- 世界的な半導体関連需要が持ち直しつつあった電子部品・デバイス工業（同▲2.5%）は2カ月連続で減少。はん用・業務用機械工業（同▲6.6%）や生産用機械工業（同+2.5%）も均してみれば低下傾向が続いた。
- 製造工業生産予測調査によると、5月の生産は季調済前月比▲4.1%、予測値と実績値の平均的なズレを経済産業省が補正した値も同▲5.7%程度と、2カ月連続での大幅な減少が予想されている。

基調判断と今後の流れ

- 生産指数は、世界的な新型コロナウイルスの感染拡大による経済活動の抑制を背景に、自動車工業を中心に大きく落ち込んでいる。
- 先行きの生産は、20年半ばにかけて減少基調が続くと見込む。緊急事態制限が解除され、外出自粛による国内需要の落ち込みはやや和らぐと予想するものの、3月以降は中国のみならず、欧米など世界的に新型コロナウイルスが経済活動を抑制しており、①輸出の減少や、②サプライチェーンの寸断などを通じて、日本の生産の下押し要因となろう。
- 生産の下振れリスク要因は、①新型コロナウイルスの流行長期化による世界経済の落ち込み長期化、②国内での再流行による外出・営業自粛要請の再強化が挙げられる。